

10月定例教育委員会  
会議録

1. 招集年月日 令和6年10月10日（木）
2. 招集の場所 海田西小学校
3. 開会（開議）令和6年10月10日（木） 9時30分宣告

4. 出席者

教育長 森山 真文 委員 林 孝 委員 米丸 禎宏  
委員 大野 美恵子 委員 竹岡 美佳

5. 説明のため出席した者の職氏名

教育次長 新藤 正敏 学校教育課長 小村 孝広  
教育指導監 立田 春美 主幹 高木 和希  
生涯学習課長 森原 知美

6. 職務のため出席した者の職氏名

係長 平田 裕子

7. 議事日程

- 第1 会議録署名者の指名について 大野委員
- 第2 議案第19号 令和6年度海田町教育委員会点検・評価  
(令和5年度対象)について
- 第3 報告協議第37号 生徒指導上の諸課題について
- 第4 報告協議第38号 各行事の開催及び結果等について

## 8. 議事の内容

9 : 3 0 開始

- 教育長（森山） それでは10月教育委員会会議定例会を始めます。本日の会議録の署名は大野委員にお願いいたします。 それでは議事に入ります。 議案第19号，令和6年度海田町教育委員会点検・評価（令和5年度対象）について，を議題といたします。事務局から説明をお願いします。
- 教育次長（新藤） 議案第19号，令和6年度海田町教育委員会点検・評価（令和5年度対象）について，を教育委員会に議決を求めるものでございます。別冊の資料を御覧ください。前年度に引き続き，広島大学大学院人間社会科学研究科曾余田浩史先生に外部評価員として御指導いただきました。具体的には，令和6年8月27日に海田町役場でヒアリングを開催し，評価結果の妥当性や分析，日付の適切性などについての質疑を通して，御指導，御助言をいただきました。このヒアリングで，御指摘いただいた箇所を修正した資料を，9月20日付で曾余田先生に送付し，御確認いただいた上で，本町教育委員会の点検評価は，適切に行われているという判断をいただいております。ヒアリングで，報告書全体を通しての指摘としては，大きく4点ございました。1点目が，資料数値の結果だけではなく，なぜその結果となったのか，要因分析を踏まえた記述とし，その上で，要因分析を踏まえて，何に取り組むのかを，今後の方策に盛り込むこと。2点目が，国や県の施

策を受けた取組であっても、海田町教育委員会の意思をどのように取り組みに反映しているか、記述の中に見える形にすること。3点目が、事業を単年度で捉えて、この取組をやりました、できました、と評価するのではなく、複数年度の積み重ね、歩みを踏まえて、事業の方向性を意識して評価し、こうした評価が見える形で記述すること。4点目が、取組や成果、今後の方向性について、項目を羅列的に記述するのではなく、優先順位、価値づけを意識すること、といった御指摘がありました。これらの指摘に加え、事業それぞれでいただいた御指摘等もございましたので、これらを踏まえ、各課から御説明させていただきますので、よろしく願いいたします。それでは、まず学校教育課から説明いたします。

○学校教育課主幹（高木）学力向上総合対策事業、教育振興事業について、御説明いたします。8ページを御覧ください。県が作成している広島版カリキュラム・マネジメントシートと、単元構想シートを海田町として、どのように活用しているかについて、指摘を受けました。本町は、児童生徒の資質・能力の育成を目指した主体的な学びの実現に向けて、この2つを活用しております。広島版カリキュラム・マネジメントシートについては、各校の評価の結果について、各校の管理職と面談や町主催研修の際に、結果について触れながら、組織的、計画的に教育活動の質が高まるように、指導助言をしております。単元構想シートについては、教員と児童生徒が単元を通して、問いと向き

合う時間を確保しながら、事業改善を行っています。教員一人一人が単元構想シートを活用して、事業研究を行い、町主催の学びの変革協議会において、事例などを共有しております。このような取組は、全国学力・学習状況調査や標準学力調査において成果として表れております。10 ページを御覧ください。今後の方策においては、優先順位が高いものから、4点示しております。その点の指摘を受けましたので、ここに改善をしております。以上でございます。

○学校教育課長（小村） 続きまして、11 ページを御覧ください。グローバル人材育成事業について御説明いたします。まず、下段の方の事業評価におきまして、英検 I B A の結果の方が、下がっていることにつきまして、この結果をしっかりと踏まえ、令和6年度はどのように取り組んでいくのか整理していくことで、今後の方策に係る目的が、より明確になっていくというようなことを御指摘いただきました。この点につきまして、12 ページの上段にございますように、リスニングの平均正答率も下がっていることを踏まえて、次の2点を追記しております。1点目は、コミュニケーション能力を高めるためには、日常的に英語に親しめるような学習環境の整備、このあたりはデジタル環境も少し意識しております。2点目は、小学校段階から、系統的に児童生徒の語学力の向上を図る取組が必要である。こういった小中一貫の取組についても、充実させることが必要であるということを追記させていただきます。以上でございます。

○学校教育課主幹（高木）続きますして、13 ページ I C T活用事業についてです。13 ページの下段の事業評価に示している、海田町 I C T実態調査の結果について、令和5年度の数値が下がった理由について、御指摘がありました。項目を見ていただくと、児童生徒にお互いの意見や考えなどを共有させたり、比較検討させたりするために、I C T機器を活用した児童生徒の意見などを効果的に提示するというものです。令和4年度と令和5年度を見ていただくと、小学校、中学校とも数値が下がっております。このことについては、事業評価の2行目のところに記載してある通り、I C T機器の活用を苦手とする教員が一定数いることから、教員の I C T活用スキルの底上げを図るとともに、デジタル教科書を使用できる教科を増やすなど、日常的に I C T機器を活用できる環境整備を課題としております。このように追記をしております。今後の方策として、14 ページを御覧ください。理論を中心としてきた研修を、デジタル教科書を活用した事業研修に変えております。また、必要な I C Tの活用スキルを理解し、先生方が把握できるように、評価基準を作成し、各校に提供してまいります。さらに、複数の教科で、デジタル教科書等の導入を検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○教育指導監（立田）続きますして、豊かな心の育成について御説明いたします。心の元気を育てる地域支援事業です。事業として、1番重要な項目は何か、なぜ評価がAなのかが分かるように説明するように、

との御指摘がありました。下の方を見ていただきたいのですが、事業評価において、学校運営協議会の評価や支援を受けて、取組を改善したことや道徳教育の充実をポイントとしまして、取組を継続していったことにより、児童生徒の自己肯定感や社会参画意識の高まりが見られたことが結果としてありましたので、Aとしている、ということが分かるような表記としております。次に、18 ページを御覧ください。青少年サポート事業です。不登校児童生徒数が増加していることについて、海田町として、どのように捉えているのか、増えたから評価が下がる、減ったから評価が上がるということではなくて、取組にどのように向き合っているのか、ということが分かるような表記にするようにとの御指摘がありました。ここでも、事業評価を見ていただきたいのですが、4行目のところでございます。適応指導教室の設置や教育相談員による取組の成果が一定程度表れていることについては、評価ができますが、前年度と比べまして、不登校児童生徒数が44パーセント増加しております。これは、課題だと捉えるべきだと、海田町教育委員会としても考えています。ということで、今後も児童生徒に寄り添った支援を行っていく、というような表記をさせていただいております。以上でございます。

○学校教育課主幹（高木）続きますので、21 ページを御覧ください。これも議会運営事業についてです。22 ページを御覧ください。上段のところに、標準学力調査の結果を示しております。この結果について、ど

う捉えているかについて、御指摘がございました。お祭りやボランティア活動など、地域行事に参加をしていますかについて、特に令和5年度については、中学校においては、成果が出ております。このことについて、こども議会を教育課程に位置付けることで、地域の一員としての自覚が高まり、地域行事への参加に繋がっていると考えております。その点について、ここに追記をしております。また、今後方策としましては、地域への愛着や地域貢献していこうとする態度を育成するためのプログラムを、各校のこども議会担当者と開発していこうと考えております。以上でございます。

○学校教育課長（小村）学校教育課からは以上でございます。

○生涯学習課長（森原）生涯学習課から御説明させていただきます。30、31 ページを御覧ください。生涯学習の推進の公民館管理運営事業について、今後の方策の1行目に海田町文化スポーツ協会と連携し、住民の自主的な講座活動を支援していくと記載していたところ、もう少し具体的な記述をすることという御指摘があったため、追記し、特に海田東公民館においては、文化スポーツ協会への各種手続き文書の引継ぎや文化スポーツ協会からの周知文書の配布等を行い、各講座の活動支援を行っていく、としております。また、32 ページを御覧ください。公民館主催講座事業について、働いている世代を増やすという観点から、事業評価が必要であり、その評価を踏まえて、今後の方策を記載するようにとの御指摘がありましたので、今後の方策の1番目について

て、働いている世代など公民館に来館する機会の少ない世代を対象とした、講座のメニューや内容の拡充について検討を行い、公民館利用者層の拡大を図ると修正しております。続きまして、47、48 ページを御覧ください。放課後子供教室事業です。今後の方策の学びの広場について、スタッフの確保、不足していたことについて、育成という観点が必要ではないか、との御指摘により、スタッフの育成というように位置付けを修正しております。続きまして、57 ページを御覧ください。地域運動部活動推進事業についてです。今回の評価をAとしているのは、仕組み作りができたからということが分かるように、記述することという御指摘がありましたので、事業評価の1番上に、休日の部活動を地域スポーツクラブ、織田幹雄スポーツクラブで実施する仕組み作りができたことと追記しております。生涯学習課からは以上でございます。

○教育長（森山）先生から御指摘をいただいたところの修正点について、まとめてお話をさせていただきました。今の説明の中で、御意見がございましたでしょうか。

○委員（竹岡）先生から御指摘いただいたことを、何点か説明していただくのを聞きながら、私が感じた感想なんですけれども、点検・評価は令和6年度に、去年の令和5年度の事業を点検・評価しているんですけど、去年の事業を評価するだけではなくて、何のためにしているのかというと、これから先の海田町の教育のためにしていることなの

で、去年のその事業だけに収まらず、海田町として、どうしていくのか、教育をどうやっていきたいのか、教育大綱だとか夢未来ビジョンだとか、そういうのが町としてのストーリーが、こう見えてくるものになっていくといいのかなあと思いました。やはり、これを作る時には、たくさんの事業があって、その事業1つ1つにも、振り返りをして、評価していくので、とても大変な作業だと思います。そこに没頭してしまって、枝葉の部分に集中してしまうんだけど、やっぱり幹の部分というか、上に伸びていく部分を忘れずにやっていけたらいいのかなと、でも、これを作るのはとても大変だなといろいろなことを思いながら、感想として、述べさせていただきました。ありがとうございました。

○委員（大野）文章がね、昨年度と変わったなというふうに思いました。書きぶりがだいぶ変わってきて、伝わってくるものが、多くなったなというふうに思いました。こういうふうに伝わる部分が増えてくると、多分、共通理解も増えていくんじゃないかなと思うので、全体として、進めていく上ではいいんじゃないかなと思いました。ただ1点ほどあります。スタッフの確保及び育成としてください、と言われたんですが、青少年サポート事業とか、そういうものは、たぶん、スタッフの育成がいるんじゃないかな、求められているんじゃないかなというのをちょっと感じるんですよね。私も携わっていて思うのですが、人材の育成というのは、どういうふうに考えて、理解したらいいのだろう

と、今改めて聞きながら思いました。確保ではない、育成、どういふふうにしたらいいのかなと思ひながら、また、こうしたらいいよという部分があれば、ちょっと教えていただきたいなと思ひんです。いろいろなことを、立ち上げるのは簡単なんですけど、でもそれをどうしまふか、どう継続していくかということが、難しいなと最近思っていることなので、ちょっと感想です。

○教育長（森山）社会教育の中で、やっぱり人材というかその担い手ですよね、育てていくという以前に、先ほど言った、確保して育てるんです。その確保の段階で、今行き詰まっているのが、どの事業もそうで、なかなか答えがないというところがあるのですけれど、そこをどうするか、人材バンクだったり、言葉が独り歩きするのですけれど、そこに人が付いてきていないという状況を考えていかないといけないかなというのは、どの事業も含めてなので。

○委員（大野）少しずつ、確保の形も変わっていかないといけないのかなと思ひます。どんなふうにと言われたら、答えはないんですけど。

○教育長（森山）引き続きの課題かもしれない。

○委員（林）この事業を継続していくために、評価して、予算を取っていくのが今後の方策の中で、そういうものを書き込めという指示はなかったですか。

○教育長（森山）予算の確保、なかったですね。

○委員（林）やっぱり、教育委員会の事業をどう進めていくのか。それ

をどういうふうに、やっていくかという時に、予算を伴うものは、どうしても出てくると思います。それをきちんと議会に示して、お金要りますよ、予算つけなさいよというような、それぐらいの評価書にしないと、なんか、お金をかけずにできることばかり、努力しますというそういうことになったら、疲れるばかりじゃないかな。

○教育長（森山）確かに。

○委員（林）首長部局に対して、教育委員会が独立した存在だけれども、お金が握られているから、それをどれだけ確保するのかという、実際に、教育委員会が表に出るんじゃないくて、それが町民に成果として現れるんだということを、書いて欲しいなと思います。

○教育長（森山）本質だと思います。

○委員（米丸）目標は毎年大きく変わらないと思いますが、その評価というのは、Aが続くというわけではなく、いろいろ年度ごとに変わっていくと思うので、継続的に一生懸命やっているってということで、引き続きよろしくお願いします。

○教育長（森山）ありがとうございました。大きくいくつかあったと思います。柱をきちんと持った上で、継続的なものになるようにということが1つ。それから、現状の課題として、人を確保するということは、大きなテーマであるということと、先ほどの予算の確保ということですかね。これありがたいことに、変な話なんですけど、今、令和7年度の予算編成をされていて、2月、3月に予算特別委員会というの

があるんですね。その時に1年遅れて、令和6年度ではないんですけど、令和5年度のこの資料を持って、予算委員会の説明とか、根拠になっていくんですね。だから、やっぱり使っているのは使っていて、ソフト面ではあるけど、やっぱり根底にお金があって、事業が動いてるというのは、私たちの中では落ちてるところがあるので、それをいかにこう見えるようにしていくということですかね。ちょっと課題として、また使い方ですね。検討していきたいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。それでは、御意見がありますでしょうか。

(全委員からなしとの声あり)

○教育長（森山）なければ、議案第19号につきましては、原案のとおり決定するで、よろしいでしょうか。

(全委員からよしとの声あり)

○教育長（森山）異議なしと認め、原案のとおりといたします。それでは、次にまいります。報告協議第37号、生徒指導上の諸課題について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育指導監（立田）初めに9月の教育委員会会議で御報告させていただきました、中学校の不登校生徒数について、訂正させていただきます。中学校3年生1名が不登校として、8月に上がっておりました。学校に改めて確認をしたところ、病欠による長欠とする報告がありました。従いまして、8月の不登校数は、小中学校合わせてゼロと修正

させていただきます。それでは、報告協議第 37 号、生徒指導上の諸課題について、を教育委員会に御報告いたします。別紙資料を御覧ください。2 ページを御覧ください。令和 6 年 9 月末の暫定値について、御説明させていただきます。小学校の暴力行為は 14 件となっております。前月比 4 件増でございます。いじめは 8 件で、増加はありません。不登校の児童数は 16 名となっております。前月比 8 名増でございます。中学校の暴力行為 9 件、増加はありません。いじめは 5 件で、増加はありません。不登校の生徒数は 27 名となっております。前月比 4 名増でございます。前月と比べまして、小学校の不登校児童は 8 名増加がございました。中学校の不登校生徒が 4 名増加しています。その中で、新規 1 名の生徒がいます。次に、小学校の暴力事案は 4 件あります。以上でございます。

○教育長（森山）はい。それでは、御意見、御感想がありますでしょうか。

○教育長（森山）あとは、不登校がやっぱりちょっと増加傾向にあるということは、あまり止め切れていないということですか。小学校の場合は、去年よりも少し増える時期がずれてきていて、この時期になって、去年よりもプラスになるんですけど、中学校は、去年早めの 30 日というところの基準がですね、来る子供たちが早かったので、ペース的には、ちょっと微増ですかね。御意見がございますでしょうか。

○委員（大野）小学校のいじめなんですが、プラスマイナスゼロで 8 と

いうのは、先月も8ですよ。

○教育指導監（立田）そうです。

○教育指導監（立田）いじめの認知件数が8件です。

○委員（大野）ありがとうございました。不登校については、真田会館を開いていただいている、昨日、地域の人たちが、たくさんいらっしやって扉を全開にしていたんですけど、堂々と前を通過して、階段を上がって、授業して、声が聞こえてきたので、頑張っているなど嬉しかったです。帰り大丈夫かな、地域の人がいっぱいいるのに。20人ぐらいですか、入れ替わりが11時ぐらいにあるんですけど。それでも、堂々と歩いていました。よかったです。温かく見守っていきたいな。ただ、地域の人はどうしてだろうと見ているところがちょっとあったので、子どもにマイナスにならないように、地域の方々の協力をお願いしようと思いました。支えていきたいなと思います。

○教育長（森山）町の適応指導教室については、県の方もいろいろ取組をしていただいている、今頃はやっぱりオンラインがかなり、うまく使えるようになってきているので、ここに無線ルーターおいて、例えば、スクールSという八本松の教育センターに置かれている県の不登校支援センターみたいなのが、そこと連携ができるような仕組みを作ったり、指導主事さんが、町の適応指導教室の指導員さんと話ができる仕組みを作ったり、どうしてもちょっと離れた場所で、ひっそりとというイメージだったところは、教職員とか子どもたちは、やっ

ぱり似た環境の子たちと繋がることができるというのは、もうここ数年、随分変わってきてますね。だから、オンラインは大きいなと思ったりしています。非常にいいかなと思います。

○教育指導監（立田） 2， 3時間で、オンラインでスクールSとか、学びプログラムを見ることに興味がある子は多いんだとも言われています。

○委員（大野） 普通に見られるようにしていただきました。

○教育長（森山） 自分のタブレットを持って行って、学校とつないで、授業風景を見たり、とかということもあるので、やっぱり変わってきてますね。環境の変化というのは、すごいなと思います。

○委員（竹岡） 見られることは辛いけど、存在として、見るというのはできそうだから。

○教育長（森山） そうですね。

○委員（竹岡） ただ、それも最初の一歩としては、その空気の感じとかをこんな感じなんだという最初の一歩が、だいぶハードルが低くなることに繋がるんじゃないかな、繋がったらといいな、そういうためにも何かできそうなことを積み重ねていくことが大事なのかなと思います。

○教育長（森山） そうですね。

○委員（竹岡） 何でこう増えるのかは、丁寧にいつも対応していただいているのに、どうしても増えている。何かもっと違う大きな流れみた

いなものがあるんだろうなと思いながら、そこがどこの学校も、どこの地域もなかなか手が打てないところがあるので、そういう気付いたところから少しずつやっていきながら、どんなことが役に立つのかなということが積み重ってきたらいいのかなと思います。ありがとうございます。

○委員（林）話を聞いてて、困っている子をふと思い出しました。加害の生徒とか、本当に学校じゃ手に負えないみたいな、どうしていいかわからんけど、その子自身も困っているんだろうなと。そこへの対応が、要るんだなという、感想です。

○教育長（森山）それでは、よろしいでしょうか。

（全委員からよしとの声あり）

○教育長（森山）次にまいります。報告協議第38号、各行事の開催及び結果等について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤）報告協議第38号、各行事の開催及び結果等について、教育委員会に報告するものでございます。それでは、各課からそれぞれ説明いたします。

○学校教育課長（小村）学校教育課です。資料4ページを御覧ください。10月の行事でございます。明日11日金曜日、海田中学校区公開研究会を海田南小学校で予定しております。同じくですね、来週、18日金曜日、1週間後ですけど、海田西中学校区公開研究会が海田西中学校

で予定しております。また、26日土曜日、両中学校の文化祭が午前9時からの予定でございます。これらについてはですね、別紙の方で、御案内を付けさせていただいておりますので、御覧いただければと思いますので、よろしくお願ひします。そして、30日水曜日、広島県市町教育委員会教育委員研修会に、皆様御参加ということでですね、よろしくお願ひいたします。11月の行事につきましては、11日月曜日、大野委員さんに、広島県女性教育委員の第2回研修会、竹原市へ御参加いただく予定になっております。14日木曜日、定例会でございます。9時半から、ふるさと館の予定です。以上でございます。

○生涯学習課長（森原）続きます、生涯学習課です。資料5ページを御覧ください。10月の行事でございます。27日日曜日、子供スポーツ交流会を海田小学校で開催する予定です。続きます、11月の行事でございます。皆様にチラシをお配りしておりますが、11月22日から12月3日まで旧千葉家住宅秋の特別公開が始まります。各種催しやライトアップなど、旧千葉家住宅の250年の記念事業で、いつもよりもいろいろと催しをすることとしておりますので、是非お越しいただければと思います。24日日曜日、ペタンク大会を海田小学校で開催する予定です。生涯学習課からは以上でございます。

○教育長（森山）別紙も合わせて御覧いただきまして、先ほどの説明につきまして、御質問等がございますでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山） それでは、以上で本日の議題はすべて終了いたしましたので、教育委員会会議を終了します。

10 : 46 終了